

今後の子ども・子育て支援の施策について

(事前に提出された御意見)

A委員

子どもの入学時などにおける子育て世帯の負担は大きいものと思われま

す。今後も、子育て世帯に対して、経済的負担の軽減を図るための施策がさらに充実すればよいと思います。

B委員

自分が子育てをしていた時期に、あったらいいと思っていた施策が、本市で実施されていることを嬉しく思います。さらなる充実と周知をお願いします。

保育園や留守家庭児童学級において、待機児童の減少と家庭への養育支援の充実を望みます。

C委員

①事業実績報告書における養育支援訪問事業の課題として、「支援員の確保が必要」となっているが、児童家庭支援センターの職員を支援員として活用することは、他市でも例があることもあり、委託事業実施ができないでしょうか。

②児童家庭支援センターでは、学習指導を通じて家庭の状況を把握し、その後の支援につなげる取組を検討しています。生活困窮者自立支援制度における学習支援事業と事業手法が類似しているため、センターとの連携・活用を検討いただければ幸いです。併せて、生活困窮者自立支援事業における学習支援事業の実施状況（支援員の配置や延べ支援数）を御教示ください。

③ショートステイ・トワイライトステイ事業について、広報される際に、児童養護施設がどのような場所か、利用者へ事前説明をお願いします。

また、来年度から小規模なホームへの移行により、本体施設の部屋に余裕が生じるため、ショート・トワイライトステイの依頼があった場合は、柔軟な受け入れが可能となる見込みです。

④新型コロナウイルス対策として、国が「子どもの見守り強化アクションプラン」が策定され、要保護児童対策協議会が把握している支援対象児童について、定期的な訪問等を通じ、現況を把握する事業が国で創設されました。来年度も事業継続は不透明ですが、この事業を児童家庭支援センターへの委託による事業実施が可能ではないでしょうか。

⑤ショートステイは令和3年度から里親へ直接委託が可能となる見込みであり、乳幼児も乳幼児養育の研修を受講した里親へ委託することにより、利用者の利便性向上につながるとともに、里親が児童を養育する貴重な機会となるため、防府市での実施について、御検討ください。

D委員

今年度の予算において、子育て環境における支援の拡充、教育環境の充実がなされ、とてもよい方向へ向かっていることに対し、有難く思っています。

さらにお願ひしたいことは、5歳児発達相談の全員実施や充実した教育環境で育っていった子どもたちの将来的な人口流出に対する施策です。

E委員

今後も増える留守家庭の保育ニーズに対して、待機児童がないようにしていただきたいです。

学校の空き教室の活用や教室の昼・夜とのルームシェア化など、いつまでも子どもが増え続けるわけでもないのに、保育ニーズが多い数年の時期だけでも、大きな費用を掛けずに、ある資源（人、物、場所）を最大に有効活用できないものではないでしょうか。